2019 年度事業 進捗報告書（資金分配団体）

● 提　出　日　：　２０２１年１１月１２日
● 事　業　名　：　中国 5 県休眠預金等活用コンソーシアム休眠預金活用事業
● 資金分配団体　：　特定非営利活動法人ひろしま NPO センター
● 新型コロナウイルス対応緊急支援助成（通常枠での追加助成）の有無　：　☑有　☐無

①　実績値

【資金支援】

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況＊
【A-a】実行団体によってハード（施設や備品等）が整備されている。	整備されたハード（施設や備品）の数	各実行団体が計画したハードが整備されている状態	2022 年 3 月（2 年目が終了した時点	おおよそ予定通りに整備が完了している。 ・たすき：栂邸が改修されている。 ・モモ：拠点を購入し整備され始めている。 ・湯来：ベースキャンプ等が整備されている。 ・狩留家：物流センターが整備されている。	2
【A-b】実行団体がハード（施設や備品等）を活用し、直接対象グループに益をもたらす（の課題を解決する）事業	①実施された事業の件数 ②益を受けることができた直接対象グル	①実施された事業～ 各実行団体が整備したハードによって全体で 8 件以上の事業が実施されている	2023 年 3 月	①予定通りにハードが活用され事業が実施されている。 ・たすき：入居法人や利用者が活用を始めている。 ・モモ：入居者による作業などが始まっている。また、人材育成も行われている。	2

が行われている。	ープの人数や団体数	②益をうけることが～各実行団体が整備したハードを活用した事業で課題が解決したあるいは益を受けた人数が 80 人		・湯来：アドベンチャー・ツーリズム（AT）等が始まっている。 ・狩留家：2021 年度収穫より活用が始まっている。 ②コロナの影響で予定よりも参加は少ない傾向にあるが、活用（事業）は行われている。 ・たすき：3 社が入居。7 社が研修実施。 ・モモ：利用者〇名。ボランティア 6 名。 ・湯来：AT は予約 907 人だったが 295 人の参加。サイクリング 10 人。飲食店 393 人。いずれもコロナの影響で想定以下。 ・狩留家：選果作業者、生産者に新たに各 1 名参加。	
【A-c】実行団体によるアプローチによって、直接対象グループが実行団体の取り組みを知っている。または参画している。	実行団体やその活動に参画した直接対象グループの人数や団体数	'各実行団体の取り組みを知っているまたは参画した人数が、対象グループ数の半数以上	2023 年 3 月	各実行団体はメディア掲載や自団体の HP・SNS 等を通じて活動を発信しているが、認知度については利用者の実数やヒアリングで測るにとどまっている。 （再掲） ・たすき：3 社が入居。7 社が研修実施。 ・モモ：利用者〇名。ボランティア 6 名。 ・湯来：AT は予約 907 人だったが 295 人の参加。	2

				サイクリング 10 人。飲食店 393 人。いずれもコロナの影響で想定以下。 ・狩留家：選果作業者、生産者に新たに各 1 名参加。	
【B-a】実行団体の活動が適切なツールで発信されている。	①新規に取り入れたまたは再整備した情報発信ツールの種類 ②情報発信した件数	①整備した情報発信ツール～ 本事業による成果を計るため、初期値は 0 とする ②情報発信した件数～ 本事業による成果を計るため、初期値は 0 とする	'①整備した情報発信ツール～ 2022 年 3 月 ②情報発信した件数～ 2023 年 3 月	① たすき：空き家情報発信 HP が設立された 狩留家：HP についての戦略が定まり、製作者も決まった。2021 年度中にオープン予定。 ② それぞれ SNS 等を活用した情報発信は実施しているが集計ができていない。	3
【B-b】実行団体による情報発信を通じてリアクションのあった潜在的なファンや事業パートナーとコミュニケーションが取れている。	コミュニケーションを取ることができたファンや事業パートナーの数	'各実行団体への問い合わせや取組への参加者がそれぞれ以下の数値以上 【たすき】のべ 400 名 【モモ】のべ 30 名 【湯来】のべ 5,000 名 【狩留家】のべ 2,000 名	2023 年 3 月	モモ：非常勤スタッフ・ボランティアへのヒアリングを実施。 湯来：本年夏は 907 人と、計画の 3 倍の予約があったがコロナによるキャンセルとなった 狩留家：新たな生産者、選果作業員が 1 名増えた	2

【B-c】つながりが生まれたファンや事業パートナーが参画（力を発揮）できる機会が提供されている。	ファンや事業パートナーが参画（力を発揮）できる機会の数	各実行団体がファンや事業パートナーにニーズによって実施した取組が 1 回以上	2023 年 3 月	モモ：学習支援や就労支援において、外部人材(学生ボランティア、学生インターン、企業ボランティア等)の受け入れや、外部団体との連携によりプログラムづくりを進めている。	2

【非資金的支援】

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況＊
【A】 ①各実行団体の組織診断結果がレポートとしてまとめられている ②各実行団体のボトルネック解消計画の有無	①実行団体の組織診断レポートの有無 ②実行団体のボトルネック解消計画の有無	'①実行団体の組織診断～ 各実行団体の組織診断が実施されレポートにまとめられている ②直実行団体のボトルネック～ 各実行団体のボトルネックを解決するための計画が策定されている	'①実行団体の組織診断～ 2021 年 3 月 ②直実行団体のボトルネック～ 2022 年 3 月	①組織診断シート作成に時間がかかり、実施が遅れている。 ②各団体へのヒアリングを通じてボトルネックを確認し、それぞれ支援を開始している。 たすき：規定類整備支援、連携・協働支援 モモ：規定類整備支援、ガバナンス支援（JCNE ベーシック認証取得)、連携・協働支援 湯来：財務・資金調達支援 狩留家：ガバナンス支援、財務・資金調達支援、後方・マーケティング支援	3

【B-a】中国地方に共通する課題や取組がレポートとしてまとめられている	中国地方に共通する課題や取組をまとめたレポートの有無	中国地方に共通する課題や取組をまとめたレポートが完成し、コンソ内で共有されている	2023 年 3 月	事業実施完了時に、実行団体が取り組んだ課題について、報告書として取りまとめる予定。	2
【B-b】 ①PO 等を対象とした研修が実施されている ②PO 等が研修に参加している	①PO 等を対象とした研修の実施された回数 ②研修に参加した人数	①本事業期間に 12 回（毎年度 4 回）実施 ②本事業 PO3 名に加えて、各県より希望者が参加し、のべ 10 名が研修に参加している	2023 年 3 月	JANPIA の PO 研修や業務改善 PT への参加､5 県間の PO 勉強会（伴奏支援と評価）を実施。 5 県間の勉強会は毎月 2 回程度。	2
【B-c】運営委員や PO 等による定期的な情報共有が実施されている	実施された情報共有会議等の回数	運営委員や PO 等による定期的な情報共有会議が本事業期間中に 36 回（毎月 1 回）実施されている	2023 年 3 月	事業開始から全 20 回の運営委員会を開催し､情報共有や出口戦略等について意見交換を行っている。	1

＊進捗状況：1 計画より進んでいる 、2 計画どおり進んでいる 、3 計画より遅れている、4 その他

② 事業進捗に関する報告

1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み
2.概ね達成の見込み

2.アウトカムの状況
A：変更項目 ☑変更なし　☐短期アウトカムの内容　☐短期アウトカムの表現　　☐短期アウトカムの指標　☐アウトカムの目標値
5. 新型コロナウイルス感染拡大に対して、事業活動を行う際に工夫した点
実行団体への伴走支援や各種会議をほぼすべてオンライン対応とした。

③広報（※任意）

1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB 等）

2.広報制作物等

3.報告書等

2019 年度事業 中間評価報告書（資金分配団体）

評価実施体制

内部／外部	評価担当分野	氏名（非公開）	団体・役職
外部	全般		多摩大学社会的投資研究所・研究員
内部	全般		とっとり県民活動活性化センター・理事長（コンソ運営委員）
内部	全般		ふるさと島根定住財団・課長（コンソ運営委員兼島根県 PO）
内部	全般		岡山 NPO センター・代表理事（コンソ運営委員）
内部	全般		ひろしま NPO センター・事務局長(コンソ運営委員長)
内部	全般		やまぐち県民ネット 21・理事（コンソ運営委員長兼山口県 PO）
内部	全般		とっとり県民活動活性化センター・事務局員（鳥取県 PO）
内部	全般		岡山 NPO センター・参画推進センター主任アドバイザー（岡山県 PO）
内部	全般		ひろしま NPO センター・プロジェクトマネジャー（広島県 PO）

A) 事業のアウトカムの進捗状況の評価

① 短期アウトカムの進捗状況

【資金支援】

指標	目標値	達成時期	これまでの活動をとおして把握している変化・改善状況
仕事や収益（活躍の場や適切な対価）を得る事が出来た人数や団体数	全体で 80 人以上が仕事や収益を得ている	全指標とも本事業終了時（2023 年 3 月）	ハード整備が完了し、これから本格的に取り組みが開始する。コロナの影響を大きく受けた実行団体もいるが、コロナ対応の計画に変更済み。 いずれの団体も指標の記録をとっているが、指標そのものが適切であったか疑問も生じている。今後の進捗を確認しながら必要に応じて指標を確認していく。
①ファンや事業パートナーの人数や団体数 ②連携と協働の取り組みの件数	①ファンや事業～ 全体で 400 人以上が実行団体のファンや事業パートナーになっている ②連携と協働グループ～ 全体で 4 件の連携と協働の取り組みが生まれている	全指標とも本事業終了時（2023 年 3 月）	①コロナの影響を受け、事業実施ができない期間があるなどファン（サービス利用者等）については想定に達していない。一方でサービスへの予約や、事業への期待などのニーズがあることも確認できており、コロナが落ち着けば目標値には到達できる見込み。 ② たすき：雲南市との連携・協働が始まっている。 モモ：ベネッセ等の企業との協働が JANPIA の紹介を通じて始まっている。 湯来：アフターコロナの環境に関するフォーラムを開催し、県内の同業者との連携が進み、運輸局事業につながった。 上記の通り、連携と共同についてはすでに 3 件の実績があり、目標値以上の達成を見込んでいる。

【非資金的支援】

指標	目標状態	達成時期	これまでの活動をとおして把握している変化・改善状況
全実行団体が規程等を整備し、ガバナンスやコンプライアンスを遵守している状態（①規定類の整備状況、②JCNE ベーシック評価取得（任意）状況）	①規定類の整備～ 組織に必要な規定類が整備され、十分に浸透している状態 ②JCNE ベーシック～ 要不要を判断し、必要とした場合は取得している	'全指標とも本事業終了時(2023 年 3 月)	①規定類についてはすべての実行団体で整備が完了した。一方で、規定類の体裁を整えるフェーズから活用へのシフトは実行団体の状況に応じて支援の有無を確認している段階にある。 ②1 団体が JCNE ベーシック評価を取得した。 他 3 団体については必要の有無も含め、支援の有無を確認している段階にある。
全実行団体の代表（事業責任者等）に対する人材の雇用状況や育成状況のアンケート評価	アンケートにおいて、組織に必要な人材が雇用され、必要なノウハウを身に着けて働いている状態についての満足度が 85%以上	全指標とも本事業終了時(2023 年 3 月)	計画にあった人材の雇用および育成については計画通りに進んでいる。 アンケートについては事業終了時に実施予定で、特に計画に変更はない。
'①メディア等の第三者によって発信された件数 ②全実行団体が連携・協働を行っている	①メディア等の第三者～ 全体で 12 件以上、メディアによってその取り組みが発信されている ②全実行団体が連携・協働～ 全体で 4 件以上の連携･協働の取り組みが実施されている	2023 年 3 月	モモ：1 県 1. 2021 年 7 月 24 日(土) 山陽新聞朝刊「若者支援岡山に新拠点 養護施設退所者ら対象 生活や進学、就労相談」 たすき：3 件 1. 新聞掲載 2021 年 6 月 24 日「山陰中央新報」にて本事業が紹介、県内のコワーキングスペースの特集として取材を受ける。 2. 雑誌掲載 2021 年 1 月号 「月間不動産流通」に空き家

			活用のいち例として掲載をされる 3. TV 報道　every 日本海 2020 年 10 月 26 日放送　オトナリのオープン時の様子が放映される 湯来：9 件 1. 5/16　NHK ラジオ 2. 5/18　FM はつかいち 3. 7/16　RCC テレビ 4. 7/16　ひろしま FM 5. 7/21　RCC テレビ 6. 8/25　RCC テレビ 7. 9/8　NHK ラジオ 8. 9/12　フジテレビ（全国放送） 9. 9/21　FM はつかいち 狩留家：15 件 1. 2021 年 4 月 1 7 日　中国新聞朝刊　タイトル「狩留家なす」甘く育て　安佐北区で植付作業 2. 2021 年 6 月 2 6 日　中国新聞朝刊　タイトル「広島発　民放 2 局　番組全国放送 3. 2021 年 7 月 11 日　広島テレビ　タイトル「新ご当地食材スター誕生！！」 4. 2021 年 6 月 27 日　テレビ新広島　「ニッポンを釣りたい！」 5. 2021 年 7 月 3 日　　中国新聞朝刊　タイトル　「狩留家

			なす　甘さ安佐北で出荷開始」 6. 2021 年 7 月 2 日　　ＲＣＣテレビ　狩留家なす出荷開始 7. 2021 年 7 月 3 日　　ＲＣＣテレビ　狩留家なす出荷開始（当日 6 回放映） 8. 2021 年 7 月 3 日～10 日　ＲＣＣテレビＹチューブで多頻度放映　狩留家なす出荷開始 9. 2021 年 7 月 11 日　日本テレビ・広島テレビ　　新ご当地食材　（全国放送２０分番組） 10. 2021 年 7 月 15 日　中国新聞朝刊　タイトル「青リンゴのような香り　狩留家なす　加熱でとろとろ　広島市安佐北区」 11. 2021 年四季刊行夏号あじかん株主様宛刊行雑誌　13P タイトル「狩留家(かるが)なすでよりよい地域づくりを。和人伝　「和の味を生み出す達人㉖」 12. 2021 年 7 月 28 日　　中国新聞（セレクト）　想　「狩留家なす」の魅力　　黒川寄稿文 13. 2021 年 7 月 31 日　　中国新聞朝刊　タイトル　「狩留家なす拠点完成」栽培・出荷量拡大雇用も 14. 2021 年 7 月 30 日　　Ａコープファーマーズみやうち週末ごちそう通信　タイトル「緑色？！狩留家なす」 15. 2021 年 8 月 15 日　　広報ひろしま　市民と市政　ひろしまそだち KITCHEN　狩留家なすの焼きなす丼ｊ

			計 28 件 当初目標値を大幅に超えた第三者メディアによる発信が行われた。
当コンソ HP 等によって定期的に情報が発信されている状態	'当コンソ HP 等に整理された中国地方において優先的に支援すべき分野、地域、NPO 等の情報が掲載されている状態	2023 年 3 月	定期的な発信ができていない状況にある。事業終了のタイミングで報告書を作成する予定となっており、紙媒体だけではなく PDF 等にして HP に掲載を行う予定。
PO として十分に活動できる人材の人数	PO 研修を 3 名が受講している	2023 年 3 月	3 名が JANPIA の PO 研修だけではなく、5 県での勉強会や、自主研修などを受講している。
組織の垣根を越えた人材交流（他県への支援やインターン）が行われた件数	'組織の垣根を越えた人材交流（他県への支援やインターン）が事業期間内に 5 件実施されている	2023 年 3 月	当初想定していたインターンや直接現地へ赴いての支援などは、コロナにより実施が出来なかったが、オンラインを活用して毎月 1 回の定例 MTG に加え、評価勉強会等を合同で開催し、PO だけではなく他役職員も参加している。

② アウトカムの分析「⑧アウトカムの達成度」（※任意）

評価小項目	評価小項目の評価結果	評価結果の考察

事業のアウトカムの進捗評価	評価結果の考察
事業のアウトカムの進捗の程度は、事業終了時には ☑ 短期アウトカムの目標値を上回っての達成の見込みがある ☐ 短期アウトカムの目標値を達成の見込みがある ☐ 短期アウトカムの目標値はおおむね達成できる見込みがある ☐ 短期アウトカムの目標値の達成は不透明である ☐ 短期アウトカムの目標値の達成は難しい と自己評価する	コロナを受けて変更した計画に関しては、短期アウトカムの目標値を上回っての達成見込みと考える。一方で直接のイベントやアクティビティなどは現実的にコロナ以前と同じ水準では考えられず、計画上は達成できたとしても、実行団体として十分な成果（例えば収入など）を得られるかどうかについては不透明な部分がある。 出口戦略の前提として、持続可能な組織となっていることを想定しているが、残りに事業期間内で組織診断を実行するなど、より充実した、かつ必要な支援を行う必要がある。

B) 事業の改善状況の評価

① 事業の実施過程・事業改善に関する評価

評価項目	評価小項目	評価結果	考察
実施状況の適切性	実行団体の計画通りに事業を運営できているかどうか	コロナ対応のため計画の変更はあったが、変更後につては計画通りに事業を運営できている。	実行団体、PO ともに社会的インパクト評価に不慣れな中で立てた計画であったことから、評価の妥当性については十分とは言えないという考察があった。 一方で当初に立てた計画を変更することはゴールを動かすよ

			うなものであるとのアドバイスを受け、うまく評価できないことも含めて評価を継続していくこととした。
実施状況の適切性	実行団体の計画通りにアウトカムやアウトプットが達成できているかどうか	たすきや湯来のように集客を伴う事業についてはコロナの影響で予定よりもアウトプットが低い。一方で集客以外の項目についてはすでに目標値を超えるアウトカムもあるなど、順調に進んでいる。	コロナの影響以外の点では想定以上にアウトプット、アウトカムの達成ができている。コロナ対応の計画に変更するなど対応についても実施完了している。コロナによる状況変化に注視しながら今まで通りに事業を推進していくこととした。
実施状況の適切性	非資金的支援（組織基盤強化、環境整備）を計画通りに実施できているかどう	組織診断シートの開発が遅れており、組織診断がほとんどできていなかったが、シートが完成し、組織診断がスタートしている。 一方で、組織基盤強化や環境整備については実行団体へのヒアリングを通じてニーズを把握し、実施をできている。	中間支援組織である当コンソは支援内容も多岐にわたっており、そのため 5 県連携しての非資金的支援に困難を抱えていた。評価アドバイザーのアドバイスを受け、支援メニューを 12 のカテゴリーに整理したことにより、非資金的支援の全体像がはっきりした。 （支援メニュー） 【共通】計画策定支援 【共通】規定類整備 【共通】組織診断 ①ミッション・ビジョン ②ガバナンス ③財務・資金調達 ④人材 ⑤事業運営

			⑥連携・協働 ⑦評価・報告 ⑧広報・マーケティング その他
実施状況の適切性	非資金的支援（組織基盤強化、環境整備）の計画通りにアウトカムやアウトプットが達成できているかどうか	コロナの影響で直接の往来ができず、大半がオンライン対応となったが、すでに実施した組織基盤強化および環境整備については、おおよそ計画通りに達成できている。	環境整備の 1 つである PO 育成について、このことが資金分配団体としての非資金的支援として適切であるかどうかを改めて検討する必要を感じている。担当 PO からは、PO の成長なくして本事業の実施は困難との声が上がっている一方で、あくまでも実行団体の支援に直接する支援であるべきという声もある。 計画上は PO 育成となっていることから PO 育成については継続するが、他地域や他団体にも育成の枠組みを広げるなど公共性を意識した展開を検討することとした。
実施状況の適切性	新型コロナウイルス対応緊急支援助成によって計画通りに活動が実施されているかどうか	4 つの実行団体中、3 団体がコロナの緊急支援を受け、事業計画の変更やコロナ対応の事業を追加した。 いずれも計画通りに予算を執行し、新たな計画や事業を実施した。	コロナによる変化に対して、緊急支援助成の枠組みを活用できたことは評価できる。また、資金分配団体としてもオンライン環境の整備（PC や周辺機器の購入等）を行い、会議やイベントのオンライン化に対応することができた。
実施をとおした活動の改善、知見の共有	実行団体の情報発信が、計画通りに実施されているかどうか。 実行団体の活動が第三者	第三者メディアによる情報発信については、目標値をすでに超えるアウトカムを達成できている。	社会からの注目については想定以上だった。また、実行団体の努力についても高く評価できる。一方で資金分配団体としてどの程度支援ができたかについては十分に測れていない。感覚としては実行団体が頑張ったのであって資金分配団体としては

	メディア等によって発信されているかどうか		十分に支援できていないとなった。事業完了時に報告書を作成する方針が定まったことから、今後は出口戦略も踏まえた情報発信を検討していくこととした。
実施をとおした活動の改善、知見の共有	社会状況や実行団体を取り巻く環境の変化等によって、当初計画からの変更が必要かどうか	コロナの影響を受けて、計画を変更した。	当初計画が十分にブラッシュアップできていなかったことと、コロナによる計画変更を同時に実施した。当初よりもブラッシュアップされた計画を策定することができたが、社会的インパクト評価を学べば学ぶほど、過去の計画を修正したくなる。
実施をとおした活動の改善、知見の共有	実行団体や当コンソの知見や経験が集積される仕組みが出来ているかどうか	現時点では特別にできていない。	知見や経験の集積については報告書に取りまとめることとなった。また伴奏支援メニューを軸とした記録フォームを作成し、支援についての統計をとれるようにした。分析はこれからになるが、ある程度の支援実績が積み重なれば知見や経験を見える化できるよう分析していくこととした。
実施をとおした活動の改善、知見の共有	実行団体や当コンソの知見や経験がステークホルダーに共有されているかどうか	現時点では特別にできていない。	報告書および報告会などを開催し、知見や経験の共有を図ることとした。
組織基盤強化・環境整備	実行団体のガバナンス・コンプライアンス体制が整っているかどうか	全実行団体の規定類整備が完了した。 また 1 団体が JCNE ベーシック認証を取得した。	形の上での規定類は完備されたが、その体制を活用してこその整備であることを再度確認した。一方で急激にガバナンス・コンプライアンスを整えることのリスクがある（実態との乖離に現場が混乱するなど）ことから、進め方については実行団体の意思を尊重し、必要に応じて支援を行うこととした。このことは JCNE ベーシック認証についても同様。

組織基盤強化・環境整備	実行団体の役職員（事業の担い手）が雇用され、育成されているかどうか	本事業において直接的に雇用を行ったのは湯来の 1 団体であり、予定通り雇用ができ現在も働いている。 またモモにおいてはボランティアや職員育成についての取り組みを実施している。	雇用については資金分配団体としては特に支援ができていない。人材育成についてはモモと企業の連携協働を支援するなど積極的に実施できた面もあるが、共通課題について合同研修を実施するなど、当初の想定であったことはまだ実施できていない。引き続き実行団体のニーズを図り、必要に応じて研修等を提供することとした。
組織基盤強化・環境整備	実行団体がファンや事業パートナーと連携、協働で活動に取り組んでいるかどうか	いずれの団体も単独ではなく連携・協働を意識した動きができている。 湯来については、地元の同業他社と連携して運輸局事業にチャレンジし採択され、協働連携事業がすでに始まっている。	協働の推進については資金分配団体として改めて重視する方針を確認したが、協働はあくまでも手段であることから、実行団体の状況や意思を尊重した支援を行うこととした。 一方で、JANPIA 等からの紹介など、企業等のパートナー側からの働きかけについては積極的に受け入れ、マッチング機会を提供するなど協働の目が出るよう取り組んでいくこととした。

② 短期アウトカムの状態の変化・改善に貢献した要因や事例

コロナによる変化に対して、緊急支援助成の枠組みを活用できたことは評価できる。また、資金分配団体としてもオンライン環境の整備（PC や周辺機器の購入等）を行い、会議やイベントのオンライン化に対応することができた。

③ 事前評価時には想定していなかった成果

1)中間支援組織である当コンソは支援内容も多岐にわたっており、そのため 5 県連携しての非資金的支援に困難を抱えていた。評価ア

ドバイザーのアドバイスを受け、支援メニューを 12 のカテゴリーに整理したことにより、非資金的支援の全体像がはっきりした。
コンソ・バラエティ型の資金分配団体としての成果について、まだまだ議論や検討は必要だが、一つのモデルが見えつつある。

（支援メニュー）			
【共通】計画策定支援	【共通】規定類整備	【共通】組織診断	
①ミッション・ビジョン	②ガバナンス	③財務・資金調達	④人材
⑤事業運営	⑥連携・協働	⑦評価・報告	⑧広報・マーケティング
⑨その他			

2)事業計画、評価計画については、資金提供契約時と事前評価時の 2 回にわたってブラッシュアップを行ってきたが、中間評価等を行う中で非常に扱いにくい内容になっていることに気付いた。このことは、社会的インパクト評価に対する理解が向上したこと（成果）の表れであると考える。方向性の一つとして、計画を修正することも検討したが、評価専門家のアドバイスを受け、ゴールを動かすのではなく、この扱いにくいという状況も含めて評価することとした。

④　事業計画（資金分配団体）の改善の必要性の確認

☑ 社会課題のニーズに事業計画の内容は合致している

☑ 受益者や対象グループのニーズに事業計画の内容は合致している

☑ 事業計画に記載している活動は、アウトプット⇛アウトカムへのつながりが実際に確認できている

☑ 残りの期間の資金配分・人員体制・スケジュールは活動を円滑に行えるよう計画されている

☑ 短期アウトカム指標は、事後評価時に測定し、達成度を評価することが可能な内容になっている

事業の改善状況の評価結果	評価結果の考察
残りの事業期間で、事業が短期アウトカムを達成するために、 ☑ 事業計画は適切に改善されたといえる ☑ 事業計画を適切に改善する見込みがある ☐ 事業計画の改善について、課題が残っていると自己評価する	現在の事業計画に示されている短期アウトカムについては、おおよその方向性については適切であると判断している。一方で社会的インパクト評価で測る際には、指標の妥当性、実行団体ごとに異なるアウトカム・アウトプットの整理など課題も多い。 現状はゴール（事業計画）を動かすのではなく、その課題も含めて評価する方針となっており、その点においては事業計画の変更はなく、適切に改善できていると考える。 一方で、実行団体の短期アウトカムについては資金分配団体として押し付けるものではないため、実行団体からの改善ニーズがある場合は柔軟に対応していくこととした。